

ドイツ留学を通して

～なぜ、あえてオルденブルク？語学力ゼロからのスタート、1年間の記録～

法文学部 向吉 瞭

Youは何しにGermanyへ？

「なんでドイツにしたの？」という質問は留学に行く前も、行っている最中も、行った後でもよく尋ねられます。

「どうせビールでしょう？」——「はい、その通り！」と即答したい気持ちを抑え、「いやいや、ビールもだけど、ドイツのビジネスや移民、音楽を勉強したんだ」と反論且つ説明をするのが、留学を終えてからの醍醐味です。

今回は私がオルденブルクで見た景色を紹介します。

- オルденブルクって
どんなとこ？
- ・人口約18万人
- ・電車でブレーメンまで30分、
オランダも近い！
- ・自転車が市民の足。
- ・緑豊か。
- ・寒い



語学学習について

「習うより慣れよ」

渡航前の独学では、文法の壁に直面…
机上で「日本語でドイツ語を学習する」
ことに限界を感じていました。



～教室の外で学ぶTandem～

Tandem（タンデム）とは？

互いの言語を教え合うパートナー制度。大学のweb
システムで申請可能。私の場合は学生バーや語学
カフェでの出会いを活用。

私のTandem

ウクライナ人と「日・英」交換
ドイツ人と「日・独」交換



活動内容: カフェでTED動画を見て議論、
家で料理を作りながら生活ドイツ語を習得。

結論: 語学だけでなく、文化を知る一番の近道！

課外活動①～音楽に国境はない？～

せっかく長期滞在する街！教室では出会えない仲間とも
音楽を通して繋がりました。

日・韓・独のメンバーで「J-POPバンド」を結成！

大学や学生バー、商業施設で演奏しました。

さらに、ドイツ人・トルコ人とも組み、現地の音楽やト
ルコ音楽にも挑戦しました。

国籍も言葉も関係なく会場が一つになる熱気に音楽の持
つ「力」を感じました。



まとめとメッセージ

留学前は漠然と「みんなと同じように大学へ行き、みんなと同じように就職をするんだ」「周りに遅れを取ることは良くない」と考えてしまいがちでした。しかし、ドイツ留学を通して多様な価値観に触れる中で、その思い込みが後進的であり、自分を狭め
ていたことに気づきました。

これから留学を迷っている皆さん。体験に勝るものはありません。興味のある分野がドイツにあるなら、ぜひ一步を踏み出してください。

大変なこともありますですが、留学が終わる頃には、自分の成長と素晴らしい仲間を肴に、最高の乾杯ができるはずです。Prost!

初期の苦労

到着した私を待っていたのは優雅な生活ではなく、

- ・手続きの山(住民登録、携帯契約、滞在許可、放送料金など)
- ・予約が取れない住民登録(1か月先まで予約が埋まっていました)
- ・大学の授業(セミナー形式、課題多い)

最初は、「何もできない自分」に打ちのめされる日々でした。
きついときにはできない自分を認め、「助けて」と周りの誰かに頼みましょう。

特にバディ（個人チューター）にはお世話になりました。
(バディへのお土産必須!!)

Carl von Ossietzky
Universität
Oldenburg



ドイツビールについて

ドイツと言えば、ビール。

約1,300の醸造所と、5,000種類以上の銘柄があると
言われています。



ビアホールはコミュニティハブ

おいしいビールは人と人の距離を縮め、笑顔を作
る。(ノンアルビールもあります！)



豆知識

【Pfand制度】

空き缶や瓶はスーパーへ！専用機に返却する
とお金（デポジット）が戻ってきます。

【乾杯のルール】

「Prost!（乾杯）」の時は、必ず相手の目を
見る！目を合わせるのはマナー違反

課外活動②～格安移動で賢く旅をしよう～

時間がある時は*Deutschland Ticket*やLCC (Ryanair)、格
安バス (Flixbus) を駆使して、国内に限らずヨーロッパ中を
旅することをお勧めします。観光地巡りも良いですが、街を
ぶらぶらしたり、ホステルで友人を作ったりするのもいい経
験です。

「Deutschlandticket」

ドイツ国内の公共交通機
関（高速列車除く）が乗
り放題！大学からもらえる。

「DB（ドイツ鉄道）

遅延・欠航は当たり前。
常にプランBを用意して
時間と心に余裕を持ち
ましょう。

